

セクシャリティの問題（男性）

がんの治療は、治療中や治療後の性生活に影響することがあります。がんの治療で体や心が変化すると、がんと診断される前や治療を受ける前とは、性生活に対する考え方が変わったり、性生活に気持ちが向かなかったりすることがあります。

原因は. . . .

抗がん薬の影響

- ・一部の抗がん薬は精巣の機能に影響を及ぼすため、男性ホルモンの分泌が低下します。男性ホルモンの分泌が低下すると、性生活に気持ちが向かなくなることがあります。
- ・勃起に関わる神経に影響する薬もあります。

精神的なストレス

観察ポイント. . .

- ☑不妊、無精子症、精子減少
- ☑勃起不全、射精不全、性交痛
- ☑性欲低下、オルガズムの低下
- ☑抑うつ

こんな時は相談しましょう

- ◇ 聞きづらいこともあると思いますが、治療を受けている期間やその直後は、セックスをしてもよいか、いつ再開したらよいかについて、体のことをよく知る担当医に確認してみましょう。
- ◇ 勃起障害を治療したい場合は、医師・看護師に相談してみてください。
- ◇ がん相談支援センターのがん専門相談員にも困り事や悩みごとについて相談することができます。がん相談支援センターでは、必要に応じて院内や院外の専門職を紹介してもらうことができます。
- ◇ 患者サロンなど、同じような体験をした人と話ができる場に関する情報をもらえることもあります。
- ◇ 相談したり、話をしたりすることで気持ちの整理ができたり、解決の糸口が見つかるかもしれません。性のことをオープンに話すことは抵抗があるかもしれませんが、一人で抱え込まず、安心して相談できる場を利用しましょう。

セクシャリティの問題に対して．．．

◇ パートナーへの影響

- ・抗がん薬治療中やそのあとは、精液に薬の成分が含まれることがあります。そのため、薬物治療を受けたあとしばらくの間は、パートナーが薬の影響を受けないように、コンドームを使う必要があります。



◇ 感染や出血

- ・抗がん薬の副作用で、白血球や血小板の数が少なくなる時期があります。その時期は、感染予防や出血予防のためにセックスを避けましょう。白血球や血小板の数が回復したあとは、セックスを再開することができます。

◇ 勃起障害

- ・勃起障害は心理的な影響を大きく受けるといわれています。「うまくできないのではないか」という恐怖心があって性生活に影響を与えている場合は、心のケアを受けると改善することもあります。
- ・勃起障害は、糖尿病の合併症の自律神経障害か抗がん薬の影響なのか判断が難しいところがありますが、泌尿器科への紹介や薬の使用も考慮できます。

- ◇ 【引用・参考文献・資料など】国立がん研究センター がん情報サービス(ganjoho.jp) : 診断と治療＞ がんやがん治療による性生活への影響

https://ganjoho.jp/public/dia_tre/sexual_health_issues/index.html

(検索日：2025年2月13日)